

令和4年度事業計画

施設名 東京都清瀬喜望園

I) 事業の始まりに寄せて

東京都清瀬喜望園（以下、喜望園）は令和4年4月より、前法人から運営を引き継ぎ社会福祉法人まもりも会が指定管理者となり運営することとなります。又、令和4年度から5年度にかけての指定管理中の2年間は令和6年度民間移譲に向けての移行準備期間でもあります。昭和51年から喜望園を長きにわたって運営してきた東京アフターケア協会の職員の大半をまもりも会の職員として新規に雇用することから、ご利用者にとっては、運営法人が変わることによる不安の解消となっている面がある一方で、その組織風土を引きずりながらの事業開始となる側面も持っています。

まもりも会も清瀬療護園の民間移譲時に、それまでの措置、指定管理の時代からの転換時に大幅な給与の改定、民間になることへの意識転換等の困難な時期がありました。

これらのことを踏まえると事業開始の1年間は、法人理念及び「地域と混ざり合う施設運営」という喜望園の事業コンセプトの周知徹底とそれに基づいた医療ケアを含む重度の障害者の障害者支援施設にふさわしい新たな運営体制の再構築が重要な課題となります。

次いで、経営基盤の確立、地域との関係強化も重要な課題です。喜望園は長きに渡って内部障害者の授産を中心とした入所施設として運営をしてきました。そのため、現在では施設入所の対象ではない区分の低いご利用者も入所しています。最重度加算も視野に入れた計画的な入所受け入れによって経営基盤を確立する必要があります。

地域との関係強化は事業コンセプトに基づいたものとして進めて行く必要があります。施設内完結型の支援から「地域と混ざり合う」支援、地域共生型施設への転換です。今年度下半期から始まる新施設の建設と連動しつつ、それらのことを進めて行く必要があります。

II) 令和4年から令和5年にかけての事業計画

1, 法人理念及び事業コンセプトの周知徹底（令和4年度）

法人研修

2, 運営体制の確立（令和4～5年度）

一体的運営の確立（令和4年度）

調理部門 清瀬療護園との一体化（令和4～5年度）

医療部門 清瀬療護園との連携

3, 経営基盤の確立（令和4～5年度）

定員60名へ利用者の段階的の受入れ

4, 地域との関係強化（令和5年度）

街歩きマップ隊、地域の障害者の受入れ準備、設備の地域開放の準備

5, 建物建設（令和4～5年度）

本部と連携した取組（建設着工から、建物整備について設計事務所及び建築業者との協議

Ⅲ) 令和4年度事業計画

2年間の事業計画を受けて、今年度事業計画は以下のとおりとなります。

1 今年度の重点事項

① 法人理念、事業コンセプトの周知

【目標】

- ・全職員を対象に法人理念、事業コンセプトの周知徹底を図ります。
- ・法人理念と事業コンセプトを融合した清瀬喜望園の基本（運営）方針を決定し周知を図ります。

【実行計画】

- ・全職員を対象に、まりも会法人理念の解釈を明確にして理解を深めるための内部研修を開催し、全職員への周知を図ります。
- ・10年、20年後を構想し「地域と混ざり合う」施設作りの事業コンセプトの周知を図るための研修会を開催します。
- ・グループワーク等を通じて施設パンフレット作りや、今後の具体的な取り組みについて検討の場を設けます。

② 経営基盤の確立

【目標】

- ・令和4年度中に入所利用者55名の受け入れを計画的に行い、令和6年度からの民間移譲後の経営基盤の確立を目指します。
- ・入所利用者の受け入れを計画的に行います。

【実行計画】

- ・令和4年度4月より、施設入所待機者リストを基に施設入所ニーズについて再調査を実施します。
- ・実施機関や計画相談事業所等と協力の上、訪問面談の実施、医療ケアを要する重度身体障害者及び重複障害をお持ちの方の施設入所の受け入れを実施します。
- ・1.7:1の人員配置基準に則った職員の雇用を確保するとともに、令和4年度からサービス推進費の最重度加算1:1を想定した手厚い職員配置を行うことで、利用者支援に必要なサービスの安定化を図ります。
- ・法人内傘下事業所と連携し、法人内異動及び法人内採用プロジェクト連携、一般求人による人材確保に向けた取り組みを実施します。

③ 一体的運営に向けた連携強化

【目標】

- ・チームケアを徹底し、質の高い利用者支援体制を構築します。
- ・隣接する清瀬療護園との連携を図り、専門性の向上を図ります。
- ・地域住民との関係の構築及び地域資源の活用を通じ、施設と地域とが混ざり合う関係性を強化します。

【実行計画】

- ・各種会議、ミーティングを通じ、部署の垣根を越えた関わりを持つことで一体化運営に対する共通意識を形成します。

- ・困った、気付いた、まずいんじゃないの（KKM）検討会を形式ばらない形で定例化し、指摘しあえ、自ら考える力を付ける組織風土の形成を図ります。
- ・利用者が自立的に活動でき、多様な選択が出来る様、地域やボランティアの受入を積極的に行い、利用者の生活の質の向上を図ります。
- ・外部講師による施設内研修や法人内研修、外部研修への参加による施設内伝達研修を積極的に行い、隣接する清瀬療護園とも共同し職員のスキルアップを図ります。
- ・ボランティアの受け入れを積極的に行います。また、地域資源等との繋がりでの促進や施設内行事や企画等を通じ地域とも繋がる機会を多く設けます。

2 年間事業計画

①提供するサービス

・個別支援計画

サービス等利用計画を基に相談支援等の他事業所とも連携し、利用者のニーズを的確に把握するとともに、利用者が快適・安心に生活できる環境を提供します。

・医療的ケアの再整備

医療ケアが必要な利用者に対して、適切な提供体制の再整備を行います。

・食生活の検討

令和6年度を見据えて、隣接する清瀬療護園と共同し給食の提供体制の構築と調理方法食の満足度の維持向上を図ります。

・その他

企画活動、生産活動、ボランティアの受け入れについて

区分	内容	参加者
企画活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ショッピング ・書道 ・カラオケ ・絵手紙 ・集団体操、個別リハビリ ・行事食、季節の料理 	利用者・介護職員・理学療法士
生産活動	<ul style="list-style-type: none"> ・空き缶つぶし ・チラシの折り込み ・電球袋詰め等 	利用者・介護職員
ボランティアの受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・ひまわり喫茶 ・ネイルサロン ・コットン倶楽部（縫物ボランティア） ・入浴後のケア（髪乾燥、水分補給、お話し相手） 	利用者・介護及び事務職員・ボランティア

	・外出の付き添い	
--	----------	--

・年間行事

開催月	催し内容	参加者
4月	お花見会	利用者・家族・全職員
5月	菖蒲湯	利用者・介護職員
6月	小外出	利用者・介護職員
7月	七夕	利用者・地域・全職員
8月	夏の夜の集い	利用者・全職員
9月	BBQ大会	利用者・地域・全職員
10月	喜望園祭り	利用者・家族・地域・全職員
11月	秋の食事会	利用者・全職員
12月	ゆず湯	利用者・介護職員
1月	新春の集い	利用者・全職員
2月	節分	利用者・地域・全職員
3月	ひな祭り	利用者・地域・全職員

② 人材育成

ア、事例検討会の開催

KKM 会議等で指摘された課題を事例検討会を随時開催し、指摘しあい、自ら考える力を身に付けることから、利用者支援や運営体制の検証を行います。

イ、研修計画

区分	名称・概要	実施予定回数	参加職位・職種
施設内研修	1. 権利擁護・虐待防止研修	1. 年 2 回	1. 全職種
	2. 医療研修	2. 12 月	2. 介護職員
	3. 外部講師による研修	3. 7 月、2 月	3. 全職種
	4. 苦情相談	4. 4 月	4. 介護職員
	5. コンプライアンス研修	5. 5 月	5. 全職種
	6. 食中毒、ノロ防止研修	6. 各年 1 回	6. 全職種
	7. 運動技術研修	7. 年 2 回	7. 介護職員
	8. 接遇向上研修	8. 年 4 回	8. 介護職員
	9. リフト研修	9. 随時	9. 新入職員
	講師謝礼（接遇研修 2 回、危機管理研修 2 回）@50,000×4		
施設外研修	1. 職員スキルアップ研修	1. 年 2 回	1. 介護職員
	2. 権利擁護・虐待防止研修 （東京都）	2. 年 1 回	2. 管理監督職員
	3. 全身協職員研修大会	3. 7 月	3. 管理職・生活支援員

	4. リフトインストラクター講習 (JASPA) 5. 関プロ職員研修大会 6. 国際福祉機器展	4. 随時 5. 10月 6. 10月	4. 介護職員 5. 管理監督職・介護職員 6. 介護職員・PT等
施設間交流 研修	法人内他事業所の研修に参加 互いに学びあい交流の場とする。	随時	全職員

II 人材育成

人材育成	1) リーダー層の育成	随時	・管理監督職の法人や外部研修の受講 ・入職5～10年の中堅職員のOJT実施 ・チームマネジメントの基礎研修の受講
	2) 専門性の向上	・研修計画参照	・研修計画参照
	3) 資格取得	随時	・介護福祉士等 ・接遇検定 ・リフトインストラクター ・リフトリーダー取得者

③ 地域連携

・新しい生活様式の時代にあった地域のニーズの掘り起こしを行い、また、地域と繋がる仕組みを構築すると共に、取り組みを通じて地域との共生を目指します。

- ・新しい生活様式の時代に求められる地域のニーズは何かを考え、多様で柔軟な支援が出来る基盤づくりを行います。
- ・利用者に必要なボランティアは安全を確保しながら活用できるための工夫を模索します。
- ・(仮称)“街歩きマップ隊”による地域資源の探索を通じ、利用者、地域ニーズ、施設ニーズのマッチングを図ります。

④ ICT化プロジェクトの立ち上げ

・ICT化プロジェクトを中心として、迅速な情報伝達及び共有を図るためのICT整備に必要な検討、準備をおこないます。

- ・介護支援ソフトを有益に活用できるための意見交換等の検討の場を設けます。
- ・業務に入るにあたって必要な情報を得るための引継ぎ方法等の整備を行うことで安心安全なサービス提供を実施します。
- ・業務フローの見直しとデジタル化の推進により、事務作業の効率化・省力化を進め、生産性の向上を図ります。
- ・隣接する清瀬療護園のICT化プロジェクトと連携し、お互いの取り組みについて情報交換を行い

ます。それにより、業務の効率化、実務量の削減等を図ります。

⑤ 利用者ニーズ把握と家族との連携

区分	名 称	実施予定回数	参加者
ニーズの把握	1. 利用者懇談会	1. 毎月	1. 利用者、職員
	2. 嗜好調査	2. 6月、11月	2. 利用者、栄養士
	3. 企画懇談会	3. 毎月	3. 利用者、企画担当職員
家族との連携	1. お花見会	1. 4月	1. 利用者、家族、全職員
	2. 清瀬喜望園祭り	2. 10月	2. 利用者、家族、全職員
	この機会にご家族との交流を含めた面談を実施。		

⑥ 防災訓練

概要	実施予定月	参加者
1. 法定防災訓練	1. 8月、2月	1. 利用者、職員
2. 定例防災訓練（夜間想定、防災設備確認、マニュアル・BCPの説明）	2. 年6回	2. 新入職員、介護職員